

## 川崎市SDGsサポート施策の

# 活用事例

～活用企業と市担当者との対談～



左から(株)ナンバーバル代表取締役/税理士 高橋 昌也さま、souveniraroma ブランド  
ファウンダー 高橋 淳音さま、川崎市総務企画局 SDGs・国際連携推進担当課長 野本陽一

### SDGs補助金を知ったきっかけ

**高橋昌也(以下代表)** SDGs補助金は「かわさきSDGsパートナー」登録者向けのメールマガジンで知りました。

**川崎市 野本陽一(以下市)** 川崎市ではSDGsの達成に向けて取り組む企業・団体の皆様を「かわさきSDGsパートナー」として認証する制度を設けており、パートナー向けのメールマガジンでSDGs補助金をご案内しました。

**代表** 元々、かわさきSDGsパートナーには登録していました。結果的に『かわさきカンキツオイルプロジェクト』とSDGs補助金のタイミングが合いましたが、最初から想定していたわけではありません。

**市** 正直なところ、企業の規模に関わらず、SDGsを全面に出した企画を事業ベースに乗せるのはハードルが高く、特に外部へのPRは大企業でも難しいと思います。その手助けをするための補助金ですので、今回のナンバーバル社様の活用は的を射っていました。

### プロジェクト予算と補助金の使い道

**代表** 総コストは約70万円、内訳は主に製作費と広報戦略費で、特に広報戦略にお金をかけています。

**高橋淳音(以下BF)** クラウドファンディングも使ったのですが、ゆずが想像以上に大人気で、開始1日で売り切れました。補助金を使って仕入量を増やすことで対応し、結果的に当初目標の500%を達成できました。広報戦略としては、まずはカメラマンに商品の写真を依頼しました。やはり、プロが撮ると見栄え、インパクトが違います。

**代表** 他にはタウンニュースに広告を出しました。あと、モデル事業として補助金が出たことで市のお墨付きのようになったのがその後の展開で非常に大きかったと思います。実際、私は市が作成したロゴ入りのレポートを常に鞆に入れています。

### 『SDGs達成に向けたモデル事業創出支援補助金』とは

かわさきSDGsパートナーが中心となって他の事業者・団体等と協働して取り組み、SDGsの達成に資するモデル事業を創出し、市内のSDGsの取組を普及・促進することを目的とした補助金です。

### 『かわさきカンキツオイルプロジェクト』が採択された理由

**市** 他の事業者と協働して取り組めるビジネスモデルであること、実現可能性がしっかりしていて他の企業でも再現性があるところを高く評価しています。福祉事業者や地元デザイナーなど、地域の事業者とコラボレーションする手法は様々な企業で取り入れることができるのではないのでしょうか。

SDGsをCSR(企業の社会的責任)と捉えている企業も多いですが、それだけでは収益に結びつかず、持続可能性があり



ません。今回の事例を参考にSDGsや補助金をどうツールとして使い、事業に取り込むかという視点で考えていただければと思います。

### 申請を検討する企業へのメッセージ

**市** どんな事業をすればいいか、といった漠然としたご質問には答えられませんが、どのように書けばよいのか、どんな情報が必要なのかについてはお伝えできます。

**BF** 私は申請にあたり市担当者に相談しながら書類を作りました。

**市** 今までに様々な申請書を拝見していますが、必要な内容が書かれていない、求めている内容と違うケースが散見されました。SDGs補助金は事業の申請なので、事業への想いを伝えようとするあまり、SDGsの理念に絡めて主観的に記載すると、事業の実現性や継続性が申請書から伝わらないことがあります。せっかく良い企画なのに、伝わらなかつたらもったいないですし、ご不明な点があれば問い合わせいただければと思います。

**BF** 大学生の私でもできる簡単な申請です(笑)。

**市** SDGsは国連で確定された理念があり、根拠のあるツールです。SDGsのことを考えて事業を組み立てるとか、SDGsの文脈で発信するとか、そういった意識で補助金も活用していただければと思います。

**代表** 行政の施策は使っている人はほとんど使い、知らない人は全く使っていません。色々便利なのがたくさんありますから、どんどん活用すべきだと思います。